

第2回美里町立小学校建設検討委員会概要録

招 集 期 日	令和7年6月20日（金曜日）
招 集 場 所	美里町役場 2階 201会議室
開 会 閉 会	開会 午後1時30分 閉会 午後3時05分
出 席 委 員	櫻沢 保（委員長）、横関 賢治（副委員長）、 新井 英行、櫻沢 克幸、櫻井 重美、深町 元秀、 大澤 桂子、岩片 利彦、原口 秀明、大澤 勇、山下 和昌、 根岸 千晴、関谷 剛、下田 裕美、高橋 洋
欠 席 委 員	逸見 猛、江森 貴文、高田 真清
説明のために出席した者	事務局 教育長 木村 健治、事務局長 上山 友子、 指導主事 神部 太輔、指導主事 熊谷 青士、 係長 新井 大樹、主査 細村 知樹、 株式会社E A（美里町立小学校統合基本計画策定業務委託 受託業者） 東海林 健、佐藤 博迪
傍 聴 人	0人

次第	内容	
1 開会	事務局 （局長）	定刻となったので開会する。 本日の会議の進行は事務局長が行う。
2 あいさつ	委員長	本日の会議は、学校の敷地拡張、体育館の規模、形態、今後の発注方法や会議日程、先進地視察等について慎重な審議の上採決をいただく予定である。 夏の暑い中、タイトな会議日程となるが、健康に十分留意いただきたい。
	教育長	美里町の将来を背負って立つこどもたちにとって、望ましい小学校教育環境はどんなものなのか、どのような教育を進めていけば良いのかという視点を大切にし、協議を進めていただけたらと思う。
3 議事	事務局	議事進行は委員長にお願いする。
議事（1）	委員長	議事（1）第1回ワークショップについて、事務局から説明させる。
	事務局	事務局を含め37名で活発な意見交換を行った。内訳は、一般の方が28名、うちこどもが7名参加した。
	（株）E A	7チームに分かれ美里町にどのような魅力

		<p>があるか、どのような学校にしていきたいかを語り合った。参加者が興味や魅力があると思っている点は、「美里スタイルの教育」、「なんでもできる学校」、「人と地域とつながる学校」という大きな3つであった。</p> <p>第2回は第1回のワークショップを引き継いで、話をしていく。</p>
	委員長	<p>挙手で質疑を受け付ける。</p> <p>→質疑がないため、議事(1)は了承された。</p>
議事(2)	委員長	議事(2) 学校に関する形式や条件の整理について、事務局から説明させる。
	事務局	議事(2)については、事務局側で進行することについて、委員長に提案する。
	委員長	了承する。
	事務局	<p>①敷地の拡張について【資料1】をもとに説明する。</p> <p>挙手で質疑を受け付ける。</p>
	委員	北西の土地が含まれていないが、検討の余地はなかったのか。
	事務局	不足する校庭の拡張と考えていたため、南側の範囲とした。
	委員	周りを道に囲まれ、駐車場にも隣接しているため、駐車場問題が解決できると思う。
	事務局	北西部の敷地は南側に水路があるため、南側を拡張し学校の敷地が四角になるようなイメージで検討したもの。
	委員	この場所が整備されれば、イベントなどの実施の可能性があるという感じを受けたため、質問した。拡張自体は良いが、加えて北西部を取得したらいかがという話である。
	事務局	承知した。
	委員	拡張予定地に家があるが、難しいのではないか。
	事務局	建物が1軒あるが、現在は空き家になっている。委員会で拡張が望ましいとなったら、所有者に意向を確認する予定である。
	委員	小学校と中学校が一緒になると、グラウンドが手狭になると思うので、拡張していただくとありがたい。

事務局	南側に敷地拡張する方向で意見として取りまとめさせていただく。また、北西部の土地については、意見として承らせていただき、必要に応じて拡張を検討する。
委員長	事務局提案について、質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事（２）①は事務局提案のとおり了承された。
事務局	②体育館について【資料２】をもとに説明する。 挙手で質疑を受け付ける。
委員	体育館の構造材は、何を想定しているか
(株) E A	構造については、次の議事で説明する。
委員	一体型にした場合、間に壁ができるのか。
(株) E A	壁を作っても良いし、なしにもできる。
委員	分離型で良いと思っているが、町民体育館が古いため、新しい体育館を町民が使えると良いと思う。観覧席は作る予定はあるのか。町民体育館をつくらず、小中学校の体育館を使うことを検討しているか。
(株) E A	現時点では、具体的な計画はこれからであるが、次回以降の議事で学校を地域にどれだけ開放していくかを考えていただこうと思っている。そこで、町民体育館としての活用などを検討いただければと思っている。
委員	そこが一番キーポイントだと思っている。
事務局	体育館については、小学校と中学校それぞれに作る分離型で意見を取りまとめさせていただく。
委員長	事務局提案について、質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事（２）②は事務局提案のとおり了承された。
事務局	③各棟の構造について【資料３】をもとに説明する。 挙手で質疑を受け付ける。
委員	建物が1,000㎡を超えるので、耐火壁が必要になると思うが、コンクリートなのか。
(株) E A	コンクリートではなくボードでも良い
委員	耐用年数はどのくらいなのか。
(株) E A	木造の耐用年数は短くなってしまいが、神社

		<p>などは100年以上木造で残っているものがあり、考え方として、その地域で育った木を使って、その土地に合った材料で作ることが長持ちさせるうえで大事だと思っている。</p>
	委員	<p>ランニングコストも含めて、どのくらい持たせていくのがベストなのか。鉄筋コンクリートでも60年程度で解体している。80年以上使っている木造の小学校があるが、そういうものを目指してやっていくのか。作る時だけでなく、その後のコストなどをどう考えているか。</p>
	(株)EA	<p>鉄筋コンクリートが長持ちするというわけではない。適切にメンテナンスすることが大事であるが、鉄筋コンクリート造、鉄骨造はメンテナンス費用がかなりかかる。木造となると、地元で手を加えられることが増える。木造の弱い部分は、仕上げの部分になるが、そこは地元の工務店や大工でも十分に手を加えられる。常日頃から地元の方々が手を加えていくことで愛着が生まれていく。建物が一番長持ちしないのは、愛着を持たれてないことで、あっという間に壊されてしまう。そういった意味では、誰もが触りやすい誰もが温かさを感じやすい木造というものが良いのではないか、それが結果としてコスト的に安く済むし、長持ちするのではないかと考えている。</p>
	委員	<p>愛着を持って、命を守れる校舎づくりが非常に大事だと思う。木材を使うことは活樹という意味でも大事だと思う。</p>
	委員	<p>校舎や給食室棟も鉄筋コンクリート造と木造という考えはないのか。</p>
	(株)EA	<p>不可能ではないが、コストや工期のバランスが大事だと考えている。木造でもしっかりした強度のものは建てられる。鉄筋コンクリート造は本当に強いが、環境に対する悪い影響がある。こどもたちの未来、</p>

	地球環境を同時に考えた場合、木造でいくということは未来への投資として十分に考えられる。
委員	補助金は、木造が良いとあるが、どのくらいの割合なのか。
(株) E A	時期によって異なるが、木を使った分に対して半分補助のものがある。
委員	コストも良く、補助金も良く、環境に良いとなると、木造が良いと思う。
事務局	確実な数字は現時点では、答えられないが、補助率 1 / 2 の補助金がある。鉄筋コンクリート造や鉄骨造と比べると最終的に木造に対する補助メニューが多いのが現状である。
事務局	小学校校舎、給食室棟については木造、小中学校の体育館については木造と鉄筋コンクリート造ということで意見を取りまとめさせていただく。
委員長	事務局提案について、質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事(2)③は事務局提案のとおり了承された。
事務局	④今後の発注方法について【資料4】をもとに説明する。 挙手で質疑を受け付ける。
委員	中学校はAの方式だったと思うが、Bの方式であれば、こちらで要望したものが作れると思う。事務局提案で良いと思う。
事務局	県内でも入札が不調になり、学校建設が進んでいない自治体がある。デザインビルドの方式であればそういった心配が少ないのではと思っている。
委員	開校が令和11年度と決まっております、設計施工を一緒にやらないと現実的に間に合わないと思っている。選択肢はこれしかないと思う。
委員	学校訪問をしていると、現在の小学校の校舎は雨漏りがしたり、悪くなってきている。早めに新校舎を建ててほしいと思っている。
事務局	B案になった場合、プロポーザル方式にて設計施工を行う業者を決めるが、プロポーザル

		<p>の選定委員を建設検討委員会の皆様をお願いしたいと思っている。</p> <p>発注方式については、デザインビルド方式ということで意見を取りまとめさせていただく。</p>
	委員長	<p>事務局提案について、質疑を受け付ける。</p> <p>→質疑がないため、議事（２）④は事務局提案のとおり了承された。</p>
議事（３）	委員長	<p>議事（３）今後の会議日程について、事務局から説明させる。</p>
	事務局	<p>【資料５、６】をもとに説明する。</p>
	(株) E A	<p>視察先の福島県大熊町立学び舎ゆめの森は、震災以後に震災復興の一部として建てられた学校である。大熊町は、人口１万人ほどで、美里町と同程度。認定こども園、義務教育学校、学童が１つの校舎に混ざっている。校舎の構造は鉄骨造で内装木質化をしている。町と学校が密接に繋がりながら学んでいる学校である。校舎は、オープンなスペースで、小学生、中学生、園児が、一緒に学んでいて、交流が活発に行われている。こんな学校もあるというところを見ていただければと思う。</p>
	委員長	<p>挙手で質疑を受け付ける。</p> <p>→質疑がないため、議事（３）については了承された。</p>
	委員長	<p>先進地視察について、挙手で質疑を受け付ける。</p>
	委員	<p>校長をゼネラルマネージャーとか教諭をデザイナーとかの名称はどのように決められたのか。</p>
	(株) E A	<p>視察当日は、学校のシステム作られた方をお呼びしている。当日直接説明いただけと思うが、先生と生徒という、一方的な関係に対する疑問からそういう呼び名ができたと聞いている。</p>
	委員	<p>視察は非常に楽しみである。</p>
	委員長	<p>挙手にて参加者の確認を行う。</p>
	事務局	<p>９名の委員の挙手を確認した。</p>
議事（４）	委員長	<p>全体をとおしての質疑を受け付ける。</p>

	委員	ワークショップに建設検討委員は参加しても問題はないか。
	事務局	ぜひ参加いただきたい。
	委員長	事務局からその他はあるか。
	事務局	次回の協議内容は、必要な教室数の整理、給食室の位置、小学校5、6年生を中学校校舎に入れるか、ランチルームの有無、職員室の形式を考えている。 また、委員からの提案議題があれば、後日で良いので教えてほしい。
	事務局	追加で質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事(4)は了承された。
4 連絡事項	事務局	7月4日(金)に先進地視察、7月23日(水)に第3回建設検討委員会を開催する。 第2回ワークショップは、6月29日(日)に開催する。 謝金の支払時期について説明する。
5 閉会	副委員長	第2回美里町立小学校検討委員会を閉会する。

以上の内容は会議の顛末を記したもので相違ないことを証するため署名する。

令和 7 年 7 月 29 日

委 員 櫻沢 克幸

令和 7 年 8 月 2 日

委 員 横関 賢治